

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 生命・環境科学部共通研究室

職階 教授

氏名 小玉敏也

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

担当する教育活動は、全学科の学生を対象とした教職課程及び環境教育を専攻する学部
の学生と大学院の学生を対象とする。前者については、教員免許を取得する学生と教員を志望
する学生の教職に関する基本的な教養と資質・能力を育成することに責任を負い、後者につ
いては環境教育の現場で生きがいを持って働く社会人と、環境マインドを持った理科/農業
教員の養成に責任を負っている。（令和5年度実績）

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
教育職概論		必修	1	26
教育法概論		必修	1	26
特別活動論		必修	3	25
総合的な学習の時間の指導法		必修	3	25
教職実践演習		必修	4	30
教育実習指導Ⅰ・Ⅱ		必修	2	30
卒業論文	環境科学科	選択	4	1
卒業論文	食品生命科学科	選択	4	1
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	1
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	1
環境教育特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	2	7
環境教育学特別実験Ⅱ	環境保健科学専攻（博士後期課程）	必修	2	1
環境教育学特別演習Ⅱ	環境保健科学専攻（博士後期課程）	必修	2	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育の理念は、環境マインドを持った教育人財を育成することにある。本学での授業を基
盤として、在学中から一般社会に積極的に関与させ、論理的/批判的な思考力、体験活動
を通じた実践力、現場往還型の研究能力を身に付けさせたい。その能力を育成するために、教
職課程では教育実習を視野に入れた主体的・対話的な授業に取組み、研究室ではインターン
やボランティアを通じた実践的な授業と事例研究に取り組んでいる。また、これらの取組み
を通じて、社会人に必要な基本的な礼儀や態度等も教えてきた。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

(1)教職課程授業での教育方法

4学年で約80名の学生を対象としている。4年次の教育実習を目標として、教員としての専門的能力（教科指導力・教育技術等）と社会人基礎力（対人関係能力・コミュニケーション能力等）を同時に育てることから、異質集団によるグループワーク、対話と合意形成の能力、人の心理を読み取る力、プレゼンテーション能力等を育成する教育方法を活用してきた。

(2)研究室での教育方法

学内での講義・演習と学外での体験実習・ボランティアを組み合わせた教育方法を活用してきた。講義・演習では正確に論文を読解できる能力と表現できる言語能力を育てる。そこで身につけた能力を、実習の現場で考え、生かし、体験しながら更に鍛えていきたい。この2種の教育活動を往還的に経験させながら、質的に高めるスパイラルな教育方法を活用している。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

- ①授業中のグループワーク、ディスカッション、模擬授業。
- ②授業時における学習指導案づくりと発表。
- ③卒論制作過程での協力企業・団体でのボランティア・インターン

（2）ICTの教育活用

有

- ①Google meetを活用したブレイクアウト・セッション
- ②Power Pointを活用したプレゼンテーション
- ③学理・Azamoodleを活用した資料保管、課題提出、試験のフィードバック
- ④ゲストを迎えたフルオンラインの授業

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

- ・教員の講義だけでなく、映像の視聴、学生同士のディスカッション、レポートの作成など、多彩な方法を組み込んで授業を行なった。
- ・欠席者には、授業を録画してオンデマンド授業を実施してきた。

(2) 学生の理解度の把握

A

- ・毎回の小レポートで理解度を把握した。授業目標に到達したレポートは、次回の授業で紹介して学生間の波及効果をねらった。
- ・中間レポートは、コメントを付して返却し、後半の授業に生かした。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

C

- ・14回中2回、指定教科書を事前・事後に読んでレポートを課していた。また、教育時事と関連させて授業をすることで、学生の意欲を喚起してきた。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

- ・質問が出るような授業の工夫をしており、実際に丁寧に対応してきた。特に1・2年生は、メンタルヘルス、3・4年生は進路に関して悩む学生がいるので、授業後に個別で相談事に乗っていた。

(5) 双方向授業への工夫

A

- ・アクティブラーニングによる教員と学生、学生と学生の関係性が良好になるような授業を実施してきた。例えば、グループワーク、ディベート、フォトランゲージ等の方法で、双方がコミュニケーションが活性化するような工夫を行なっている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

・対面授業によって、学生のグループワークや議論する場面を多く設定することができた。そのスタイルは、学生の授業評価でも好評だったので、それをもっと磨き上げる方法で授業を創り上げてきた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

・1年生と4年生からの評価は高かった。3年からは標準的な評価であった。例年、自分から進んで学ぶ比率が低いのが課題である。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

・次年度も対面授業が基本となることから、学生の実態を十分に踏まえてアクティブな授業を実施していきたい。授業の内外でコミュニケーションをとって、学生理解につなげていきたい。それが、間接的に学生の能力向上にもつながると考えている。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

・4年間履修してきた学生のほぼ全員が、教職免許を取得できている。教育実習で、実習校の指導教員から適切な助言をいただき、学生の成長に繋がっている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

- ・本年度は、教員採用試験に現役合格する学生が4名輩出できた。また、卒業後に臨時採用教員になったOB/OGから正式採用の知らせが毎年数件届いている。
- ・本学大学院生から教員採用試験に合格した学生を輩出できる体制を整えられた。本学大学院の早期履修制度を使って進学する学生が増加した。
- ・学校の教員を選択しなくても、環境系NPOや科学教育系の企業に就職する人材を輩出できつつある。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・参加している。ただし、自身の職務や研究とかけ離れた理系固有の研修は欠席することもある。欠席した場合は、可能な限り動画を見て出席の報告をしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- (1) 最新の教育時事や理論を反映した質の高い授業を実施していく。
- (2) 関連部局と協力して、教員採用試験の受験者と合格者を増加させたい。
- (3) 社会に出て、環境教育と科学教育を仕事に活躍する学生を育てたい。
- (4) 出る杭プロジェクトに参加して、新たな教職課程の可能性を具現化したい。
- (5) 環境教育を専門とする研究者を輩出したい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・アザムードルにアップした課題・テストへの回答結果、最終レポート結果、アンケート等
- ・シラバス（授業内容等）、授業評価
- ・キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・講義資料（パワーポイント・レジュメ等）
- ・卒論指導学生が提出した卒業論文要旨・卒業論文（卒論指導成果）